

わがまち

まごめ

発行 大田馬込地区推進委員会
事務局 馬込特別出張所
大田区中馬込3-25-5
☎(3774)3301(代)

北野神社

馬込の散歩道 その十

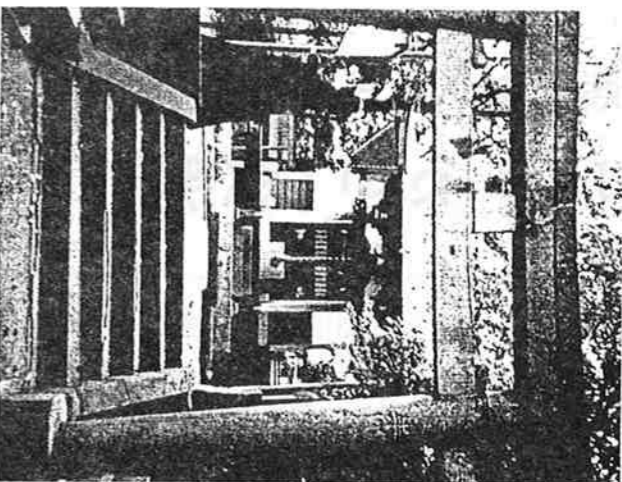
環七通りから馬込東中学校の脇の坂道を上っていくと、境内に大きな松が何本もある北野神社の前に出ます。昔の字名で「東」と呼ばれたこのあたりの「谷宮」(地域のお宮)です。松の木は新幹線からもよく見える立派な松ですが、ひんやりした木陰の境内には、他にも馬込の遺産がいろいろと残されています。

北野神社は学問の神様として親しまれ

ています。この北野神社に伝わる由緒に
よると、天文(一五四〇年)のころ武蔵
国荏原郡馬込村東谷の住人平林重郎左衛
門という人が、京都から北野天満宮の分
霊をおまつりしたといわれます。

平成八年、古くなった瓦葺きの拝殿が
地元の方々により、銅板葺きに建て替え
られました。その時、棟に打ち付けられ
た二枚の檜板が発見されました。一枚に
享保二十年(一七三五年)もう一枚には
明治三年(一八七〇年)の月日が記され
ており、共に棟上げの時の記録と思われ
ます。その後、昭和十二年に大修理の行
われたことが記録に残っています。

拝殿の前の狛犬は子供を抱いた珍しい
ものです。これにも明治三年造立の文字
があります。北野神社の現在の形が整っ
たのはこのころかと思われます。



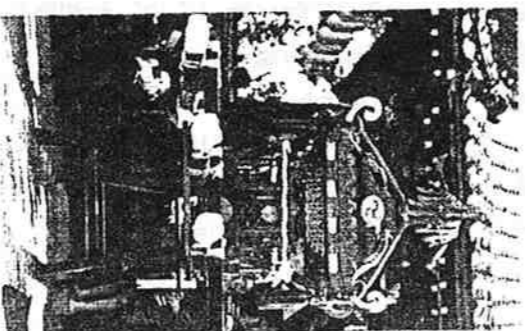
ただ、灯籠に文化十二年(一八二五)

に伊勢参りの講の人々の奉納と刻まれて
いますので、これだけは半世紀ほど古い
ものです。北野神社を訪れて驚かされるのは、境
内に生える樹木の多さです。北野神社の
シンボルの梅はもろ人、八重桜、椎、
クヤキなどが四季の移ろいに応じて、花
や若葉、黄葉などで、訪れる人々の目を
楽しませてくれます。

拝殿に向かって右側には筆塚がありま
す。昔の子供たちが文筆の上達を祈願し
て、使い古した筆を納めて供養したので
しょう。碑に向かって左手の礎石の一つ
に「筆塚」の文字が小さく見えます。こ
れが昔の筆塚の碑石です。馬込には他に
筆塚はなく、馬込の子供たちの学習の歴
史の記念碑と言ってもいいでしょう。こ
の下に、昔の馬込の子供たちの手に握ら
れた多くの筆が埋まっているのかと思っ
と、学問の神様である北野神社にふさわ
しい記念碑と思われれます。

拝殿の中には四枚の絵馬額が納められ
ています。明治二十一年から三十一年ま
までありますが、檜の板に美しく描かれ
ています。いつもは公開されていません
が、九月のお祭りの時には拝殿が開けら
れますので、絶好の機会です。

お祭りと言えばお神輿。ここ北野神社

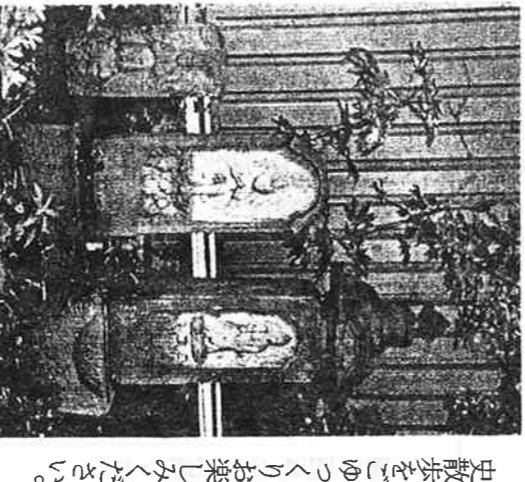


のお神輿は、馬込一と言われるほどの立
派なもの。お祭りにはぜひご覧下さい。

拝殿の向かって左側には小さな稲荷社
があります。寛政九年(一七九七)に、
京都伏見稲荷社より勧請されたとの伝承
があります。農業の守護神としてのお稲
荷様がここにも祭られているということ
は、馬込が農村社会であったことの証明
です。今でも二月の午の日に初午祭りが
続けられています。

その隣りには庚申塔が三基あります。
いずれもここにあつたものではなく、昭
和初年ごろの耕地整理などによって、辻
にあつたこれらの庚申塔がここに集めら
れたものでしょう。向かつて右の塔の上
部には大きな笠がのつています。これは
「笠付角柱型」といって珍しい型です。中
央のものは「破風型」といって大田区内
では唯一のものです。一番左側のものは
ずっと後にここへ立てられました。

このあたり、富士講灯籠や馬込自然林
などが近くにありますが。緑の中の馬込歴
史散歩をごゆっくりお楽しみください。



まごめ 文芸

俳句

浴衣の子三帯をひきつりて

坪井 教子

校庭の広き一隅カンナ咲く

兵藤 芳子

山梔子の香を籠め路地の昏れにけり

船山 紀

防災の日の校庭の秋暑し

牧田誠津子

捕へたる紙切虫のきりと鳴く

村上 知子

短歌

菜畑の堤に咲きゐる山桜

屋敷けて散る菜の花のうへ

中馬込一丸山 信子

銅鐸の土中に眠りて千年

蘇る音尺かに聞こゆ

また来てねホノノ端まで追いかけて

伊藤寿美恵

手を振る孫の姿遠のく

矢島 克子

暑き折母をたすねし風山

汗をふきふき渡る渡月橋

富田 博子

逆巻道法機姿の幼思が

大鼓たたきて祭り賑はし

林 とみ子

川柳

課題「テンプ」 川柳遊芸会

選者 近江きり

〇人生はゴールの見えない蒸道

〇定年のテンプを切るまで走りたい

〇初孫の声のテンプをききかえず

〇一着でゴールの我が子に母涙

〇乃走しテンプ切つて倒れ込み



大田区資源化センター 探訪

『ごみ』から『資源』へ

大田区資源化センターは、京浜島三丁目、大田清掃工場の隣接地に平成6年3月竣工、4月から23区初の施設として稼働を始まりました。

缶びん、ペットボトルなどが、この資源化センターでどのように処理され、『資源化』されていくのを見させていただきました。

○資源化

【資源化】とは聞き慣れない言葉ですが、とてもたいせつな意味を含んでいます。大量消費の裏で吐き出される大量の廃棄物。その中に資源として再利用できる物がたくさん捨てられています。缶やびんもその一部です。それを資源として復活させる施設という意味が『資源化センター』の名に込められています。

現在この施設で稼働しているのは『缶処理ライン』『びん処理ライン』『ペットボトル処理ライン』の三処理工程です。

○『缶』は材質によってスチール缶とアルミ缶に分けられます。スチール缶は再生するとき高い純度が求められますので、アルミセパレーターによって異物を取り除く

機にかけ、スリッケーヌ程の大きさ(70×50×20㎢)のアルミゴツト、スチールゴツト(ゴツト1塊のゴツトにはおよそ一五〇〇個の缶が圧縮されているそうです。

アルミは再生するとき高い純度が求められますので、アルミセパレーターによって異物を取り除く

いるそうです。

のですが、たばこの吸い殻などの混入ごみが意外に多いのに驚かされました。取り除きにくいため、この工程の難点にもなっているそうです。



大田区資源化センター

人の根気に支えられています。

ケースに選別された『生きびん』は、それぞれのメーカーに引き取られ、再使用されます。

【雑びん】も人手によって色別に分けられ、それぞれのベルトに乗って運ばれます。貯留ヤードの高い天井付近から落下したびんは砕かれて『カレット』(粉碎されたもの)として貯留します。白茶・青・緑・黒に色別されたカレットはそれぞれ新しいガラスの原料になるのだそうです。

○『ペットボトル』はペットボトル減容機で圧縮され、缶と同様に

○中間処理
・スチールゴツト→製鉄工場
・アルミゴツト→アルミ精錬工場
・びんカレット→ガラス工場
・ペットゴツト→再生工場

アルミゴツトは精練の結果、新しいアルミ缶や戸や窓のサッシュに、ペットボトルはカーペットやフリースなどの衣料に生まれ替わります。

つまり、大田区資源化センターは、廃棄物から選別した新たな資源を工場へ送り込む、中間の役割を担っているわけですから、馬込の街角にも各所に、黄色の岳回収ケースと、青色のびん回収ケースが置かれているのを見かけられます。

○資源回収
馬込の街角にも各所に、黄色の岳回収ケースと、青色のびん回収ケースが置かれているのを見かけられます。

私たちのできる所から、少しでもゴミを減らして資源を増やすリサイクル運動を、皆で力を合わせてもつと進めていきましょう。

馬込情報

○北馬込二丁目天沼町会長交代
前)小林直次郎氏 (新)鈴木敬之氏
自治会町会正副会長20年以上在職者の表彰 7月9日 産業プラザ
馬込北自治会⇨熊谷 健会長
天沼町会⇨小林直次郎前会長
谷中町会⇨内海 孝二副会長

○第三回馬込大盆踊り大会
日時⇨7月19日(日)20日(月)
会場⇨馬込第三小学校校庭
主催⇨馬込大盆踊り大会実行委員会

○馬込八幡神社の例大祭
9月12日⇨宵宮祭、13日⇨大祭
各地区の神社、町会、商店会等でも催しが開催されています。

○青少年学生トッポル大会
9月20日(日) 馬込中学校体育館
・生きびん⇨各飲料等メーカー
・びんカレット⇨ガラス工場
日時⇨9月27日(日)10時⇨3時
場所⇨まごめ園(甲馬込2-19)

たのしい催しがたくさんあります。皆さんお出かけください。

○第15回区民スポーツまつり
10月10日(土) 大田体育館
綱引きに我が「チャレンジャー馬込」も出場。応援大歓迎!

○五町会防災訓練
10月18日(日) 馬込第三小学校
◎馬込第三小学校で、こんな方をさがしています。

馬込の昔に詳しい方、昔遊びや伝統芸能を教えてください。ボランティアをされている方。
地域の豊かな文化とふれあう機会を作りたいと考えています。
ご協力いただける方は教頭先生までお電話を(3773-3971)

◎都立南高校公開講座(無料)
『気功法人門』5日間
10月9日⇨11月6日 金曜 夜
「初めてのワークショップ」7日間
10月9日⇨11月28日 (金)夜(土)午後
申し込み期限9月11日
くわしくは学校までお問い合わせ
せください。

○馬込特別出張所長の異動
一年余所長を勤められた戸澤前所長が、郷土博物館の副館長として転任されました(7月16日付)。

後任は平野幸枝氏。長野県出身。横浜市在住、前職
場は田園調布特
別出張所。趣味
は読書、映画鑑賞。



抱負⇨住みやすい地域作りをめざし、皆さんと共に頑張りたい!

○二七〇年音の観音様修復される
吉宗將軍の時に、西国、坂東、秩父の百観音霊場を巡礼した馬込の村人が、記念に建てた供養塔が長遠寺にあります。

二七〇年も、風雨にさらされた観音様も大分破損したので、供養塔に名前が刻まれている子孫の白田、加藤氏らが中心となって修復することにになり、7月4日、無事開眼供養が行われました。

◆二七〇年もの観音様を、その子孫の人々が集まって修復するなど、馬込はまだまだ、良いところが残されているようです。

◆まごめ文芸欄へのご投稿ありがとうございます。紙面へのご希望を聞き取らせてください。

編集後記

この「わがまちまごめ」は古紙配合率70%の再生紙を使用しています。